

第3回 代田の街づくり学習会（太子堂2・3丁目地区 現地見学会） 開催概要

- 【日時】 平成26年1月25日（土） 13時30分～16時30分
【会場】 太子堂出張所2階区民フロア、三宿まちづくりハウス
【参加者】 9名
【次第】
1. 開会・主催者あいさつ
2. 講演 「太子堂まちづくりの歩みについて」
太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会 梅津 政之輔 氏
3. 街歩き（太子堂出張所 三宿まちづくりハウス）
4. 休憩・意見交換
5. 街歩き（三宿まちづくりハウス 太子堂出張所）
6. 閉会
【配布資料】
・太子堂まちづくり年表
・太子堂2・3丁目地区 地区街づくり計画・地区計画リーフレット
・「代田の街づくり学習会」（平成26年1月25日）街づくり見学コース図

【議事】

1. 開会（13:30）
主催者あいさつ（北沢総合支所街づくり課）
 - ・本日は長年、太子堂のまちづくり協議会に関わっていた梅津氏に、「まちづくりの歩み」について講演をしていただいた後、太子堂2・3丁目地区を歩いてご案内していただき、途中、三宿まちづくりハウスに立ち寄り、休憩を兼ねて意見交換を行うという流れで進めたい。
2. 講演 「太子堂まちづくりの歩みについて」
太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会 梅津 政之輔 氏
 - ・太子堂まちづくりの歩みについて、パワーポイントを活用して講演を行った。
（配付資料：太子堂まちづくり年表、太子堂2・3丁目地区 地区街づくり計画・地区計画リーフレット を参照）
3. 街歩き
 - ・梅津氏の案内で、太子堂2・3丁目地区のまちづくり事業の成果を確認しながら、街歩きを行った。
（配付資料：街づくり見学コース図 を参照）
4. 休憩・意見交換（15:15～16:00）
 - ・三宿まちづくりハウスに到着し、休憩後意見交換を行った。

（質疑1）講演を聴き、街歩きをして感じたことは、結局は人であり、梅津さんのような素晴らしい方が太子堂地区にいて活動をされていたから、まちづくりもうまく進んだのだと思った。このような人材は、どのようにしたら発掘されるのだろうか。

（梅津氏応答）

たいへん光栄な話だが、自分自身は最初からこうではなく、初期のまちづくり懇談会の頃、猛烈な行政批判をしていた者である。行政からすると大変な人であったろう。ただ、取り組むうちに少しずつ考え方が変化してきた。そのきっかけは、いろいろな質問に対して区職員が実に誠実に、よく地区のことを理解していて、丁寧に話してくれたからである。「〇丁目の〇〇さんは…」と、本当に地区のことを知っていた。「まちづくり論」を偉そうに語っているだけの自分は、本当は地区のことをよく知らないのだなと感じた。まちづくりは、まず、行政と住民が対等に街のことを考えようという姿勢、関係づくりが大切であろう。一緒に汗を流せば、関係ができてくる。そして、取り組みながら両方とも進化して

いくものだと思っている。最初からきちんとした人材を発掘するのはなかなか難しいのかもしれない。

(質疑2) 街づくり協議会の範囲や構成を教えてください。

(梅津氏 応答)

太子堂2・3丁目(35.6ha)である。同時期に、北沢3・4丁目の協議会も設立されたのだが、そちらは町会をベースにできている。太子堂地区は、町会ベースではなく、公募制個人参加としている。また、北沢地区は、およそ2年でビジョンづくりまでして、区へ提案することができた。太子堂地区の場合は、ビジョンをつくるまでに4年、合意形成にととても時間をかけている。このように、それぞれの地区で、まちづくりの進め方はさまざまである。その地区にあわせて進めていけばよいと思っている。太子堂の協議会は、設立当初、会員50名でスタートした。現在は、登録メンバーは67名である。高齢化していて設立当初のメンバーは、さまざまな事情で半分程度はいなくなっている。ただ、分裂したり、解散している協議会がある中、太子堂はとにかく継続している。そのことはよいことだと思っているし、大切なことだと思っている。

(質疑3) 現在の街づくり協議会の状況(進め方)を教えてください。

(梅津氏 応答)

自分は、初代副会長である。実は、会長はある町会の会長にお願いしようとして働きかけたのだが断られてしまった。まちづくり懇談会で激しい議論を聴いたので、自分のことを警戒したのかもしれない。そのため、長く会長はなしで進めていた。これまでに、定例会とは別に運営委員会を実施、月2回の会議をしていたが、30年間続けていくなかで、会議の進め方にも慣れて変化してきている。現在は、会長、副会長制をやめて、よりフラットな会を目指してまちづくりを進めようとなっている。毎月第4木曜日の夜間に、大体、8~10人程度の規模で会議を実施している。ちなみに、会議に参加する人は、基本誰でもよいことになっている。

(質疑4) 地権者でもない若者も地区に多くいるかと思う。そのような層が街づくり協議会に入って一緒に活動をし、街に関心を持つことはあるのか。

(梅津氏 応答)

現在、協議会の継続年月と比例して、会員も徐々に高齢化しているという状況で、唯一、30歳代の方が1名参加してくれている。できるだけ若者にも協議会に入ってほしいのだが、いろいろ働きかけをしてきたが実際は難しく、最近は諦めモードである。ただ、若者は、まちづくりに全く関心がないということでもないと思っている。太子堂地区は長くまちづくりに取り組んでいるので、学生がよく活動に関わってくれる。その中で、太子堂地区が気に入って、社会人になっても活動に関わりたいたからと、この地区引っ越してくる人もいたのだが、やはり社会人になると毎晩遅くまで働き、会に参加する余裕すらなくなってしまうということがあった。こちらだけの問題でなく、社会全体の問題というのもあるだろう。

(吉川コンサルタント 応答)

太子堂地区は、地道な活動を長く取り組んでいるので、大学の研究室の学生たちが関心を持ち、太子堂地区に入ってくることも多い。梅津さんたちと関わり一緒に活動することで、若者たちは確実に成長をする。結果的に太子堂地区には残らなくても、そのようなまちづくりの人材は全国に散り、行政職員になっていたり、都市計画コンサルタントになっていたり、どこかの地区で住民としてまちづくりに関わっていたり...。そういう意味での若者育ては本当にしてくださっていると思っている。

(大戸コンサルタント 応答)

街づくり協議会の会合に出席する人だけでなく、まちづくりが進むということではなく、その関わり方は様々だろう。太子堂も現在は67名ということであったが、これまでにイベントに参加したりなど、いろいろな形で関わっている方がいるはずである。

(質疑5) 今回、「世田谷代田駅周辺まちづくりニュース」を見て参加しようと思った。とても充実した内容だと思った。12,000世帯に配付して本日参加者が

9人しかいなかったということなのか。
(吉川コンサルタント応答)

まちづくりというのは、実際に権利に関わることになるのと、参加者が一気に増えるものなのだが、日頃の生活、暮らしのことからの取り組みとなるのと、常に多くの参加者がいるというのは、非常に難しいものである。太子堂地区のようにその時、その時でやり方を工夫したり、テーマを変えたりして進めていくということなのかもしれない。

(梅津氏応答)

また別の話になってしまうが、自分はまちづくりに33年間関わっているが、現在、世田谷総合支所の課長は14人目である。区というのは、課長が変わると取り組み姿勢も変わってくる。例えば、前任の課長と話合いを重ねて合意し、これで進めようとなっていたのに、担当課長が変わると方針がガラッと変わるといえるのはよくあることである。また、自分たちは暮らし生活のなかでまちづくりに取り組んでいるのだが、街づくり課は、暮らしという広い範囲ではなく、例えば道路のことであるとか、もう少し限定された範囲で進めている。また、部署がそれぞれあるのでも、やはりどうししても縦割りになってしまうということもある。個人の資質や組織上の問題等、さまざまなお互い話し合う場を設ければ理解し合うことができ、必ずよい方向に進むものである。実際に取り組んでいて、要求ばかりしてはダメで対話が必要であると感じている。

(質疑6) 街づくり協議会は、任意団体なのか。

(梅津氏応答)

世田谷区は、昭和57年に街づくり条例を制定し、住民参加のまちづくりの仕組みをつくった。その中で、街づくり協議会を認定団体として位置づけ、太子堂2・3丁目の街づくり協議会も、太子堂地区でまちづくりを検討する唯一の団体として認められていた。一方で時代が変わり、いろいろな問題も出てきたことから、平成7年に条例が改正され、認定団体という位置づけはなくなった。従って現在は任意団体ということになっている。ただ、そうはいっても長く取り組んでいる協議会ではあるので、区にとっては無視はできない団体なのではないかと思っている。よくこちらの話を聞いてくれていると思う。現在は、街づくり通信の発行など資金面の補助を受けている。定期的な発行ではないが、地区の皆さんにお知らせしたほうがよい内容については、通信でお知らせしている。配付は自分たちでするようにしている。また、通信とは別に、協議会で話した内容や次回議題のお知らせについては、その都度、会員が作成し配付しているといった状況である。

5. 街歩き・閉会 (16:30)

- 往路とは違う経路にて街歩きをしながら太子堂出張所前へ、到着後解散した。

以上